

介護現場における

リハ職のための

リスク マネジメント

第1回

リハ職に必要な
リスクマネジメントの
視点・考え

株式会社リライト
理学療法士
なが き とも のり
永木 和載



さまざまな臨床現場で、多種多様な方へのリハビリテーションを実施してきた私は、重大な医療事故にはつながらなくとも事故になっていた可能性がある「ヒヤリハット」を、数多く経験しました。その経験談を臨床ならではの視点で解説し、リハ職が持つべきリスクマネジメントの視点、押さえておくべき医療知識、リハビリの実施方法やポイントを紹介していきます。

リスクマネジメントに必要な視点とは

今回はリハ職に必要なリスクマネジメントの視点・考え方について話を進めていきます。リスクマネジメントには3つの視点が重要だと私は考えています。

① 知識量 ～知識がなければ気付くことができない～

人は自分が知り得たことしか気付くことができません。知識があれば気付きは早く、なければ遅すぎるかいつまでも気付くことができません。



② 自分自身とご利用者に対して時間管理をすること

自分自身に対する時間管理

介護現場の勤務時間と自分の担当ご利用者数は、急な予定変更がない限り一定と考えられるため、ご利用者の訓練の実施時間など、すべては事前に分かることです。ヒヤリハットになる原因の1つに、訓練中の気持ちの焦りがあり、このような時間に対する気持ちの焦りが、冷静さを失わせ、リスク管理を雑なものへと変えてしまいます。リスクマネジメントに必要なのは、自分自身に対する時間管理の徹底です。

ご利用者に対する時間管理

ご利用者に対する時間管理とは、予後予測をすることです。それは、今から1週間後にどのようなリスクが想定されるか、1ヶ月後は、1年後は、5年後は…と、時間の経過とともに考えられるリスクを想起します。予後予測は疾患に限らないことに注意が必要です。加齢現象から考える視点、生活習慣および生活環境より考える視点など、予後予測の視点も複数併せ持つことが重要です。

③ 他職種の複数人とコミュニケーションを図ること

リハ職が一人のご利用者と接する時間は非常に短く、その他大部分の時間の様子を、リハ職が直接うかがい知ることは難しいです。そのため、他職種とのコミュニケーションが重要な意味を成します。

一人のご利用者に対して、さまざまな視点から観察

し、得られた情報を統合することで、リスクマネジメントの質は向上します。リハ職には、他職種の複数人と積極的にコミュニケーションを図る姿勢が求められるのです。